

## 7.1.6 景観

### 1) 囲繞景観

G、H、N-1 地区における工事前の囲繞景観は、平成 17 年と平成 28 年に調査が行われており、その間の囲繞景観の変化としては植生の生長が見られた程度の僅かなものであった。平成 30 年度は存在・供用時の事後調査として実施しており、工事前との比較には平成 28 年の結果を用いた。G、H、N-1 地区の工事前(平成 28 年)、存在・供用時 1 年目(平成 29 年度冬季)と存在・供用時(平成 30 年度冬季)における眺めの状況を図 7.1.6-1～図 7.1.6-9 に示した。

G、H、N-1 地区の工事前調査との比較では、事業実施区域である着陸帯及び G 進入路についてイタジイ-リュウキュウチク景観区から裸地路傍草地景観区へと変化していた。そのほか、工用道路では既存道路景観区やイタジイ-リュウキュウチク景観区から裸地路傍草地景観区へ、H 地区付近の作業ヤードでは路傍草地から裸地へと変化していた。一方、平成 29 年度との比較では、景観区の変化は見られなかった。なお、H 地区の一部では別事業において既存道路の下草刈りや H 付近を作業ヤードとして利用されていた。

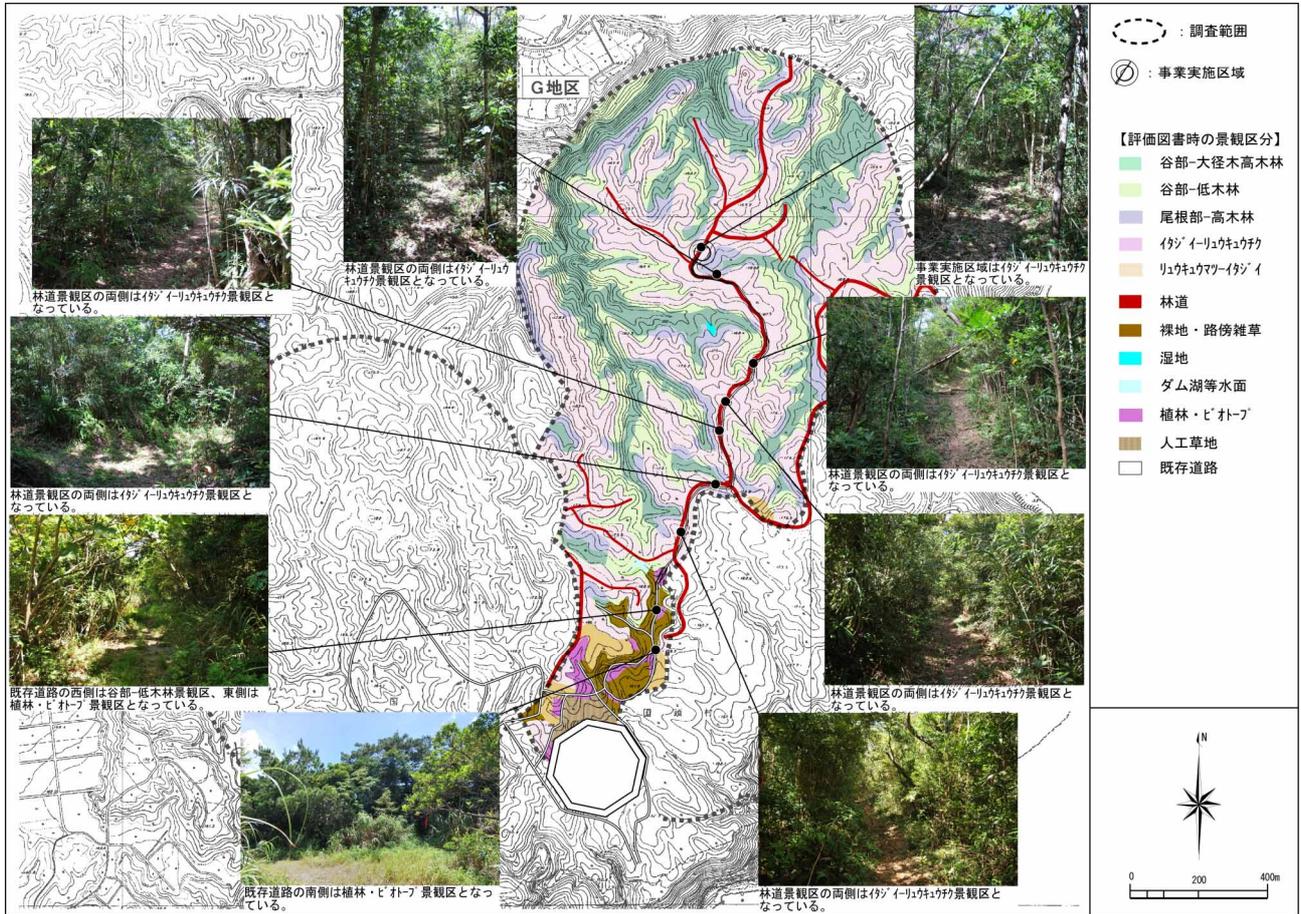


図 7.1.6-1 G 地区における眺めの状況（平成 28 年）

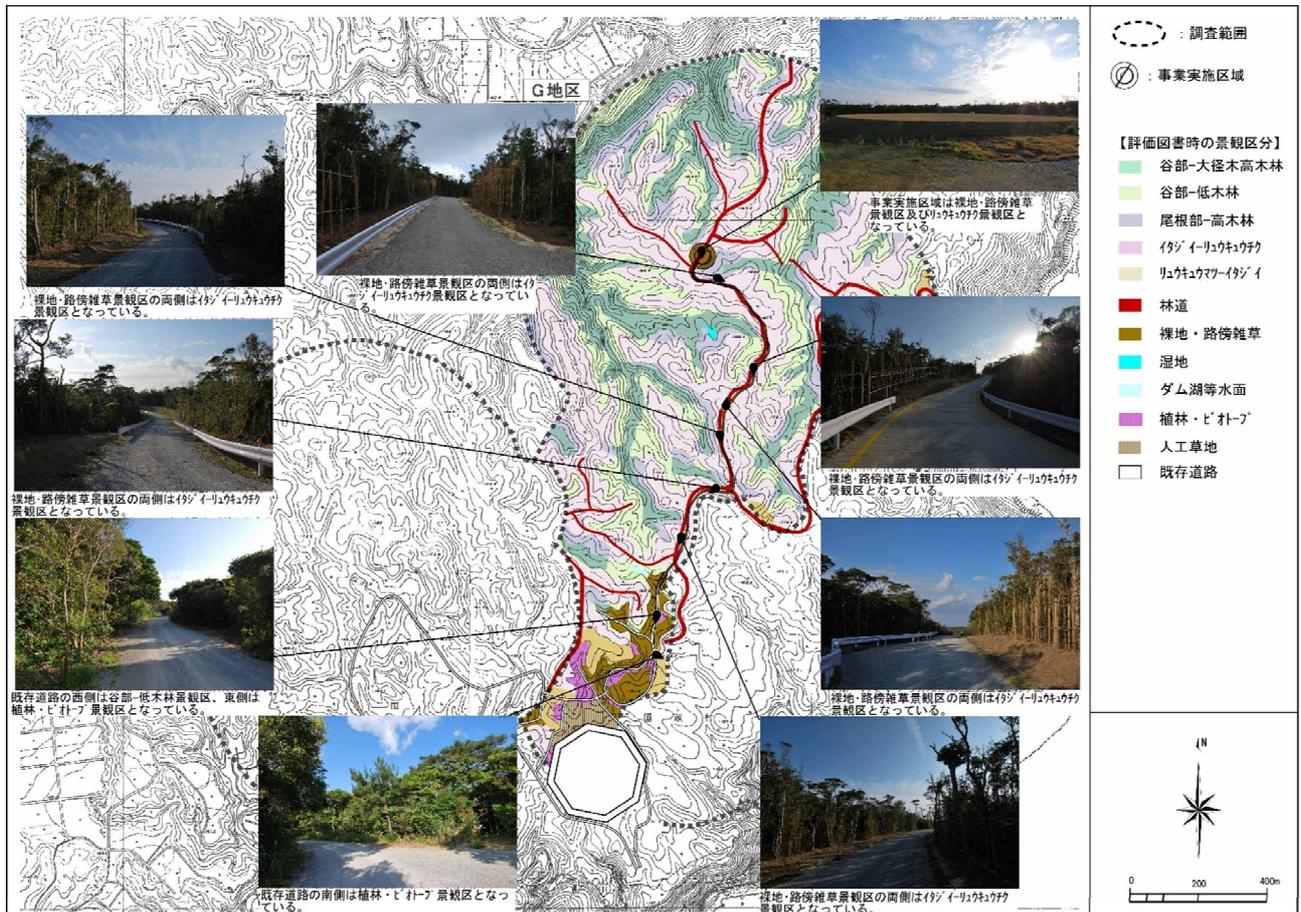


図 7.1.6-2 G 地区における眺めの状況（平成 29 年度：冬季）

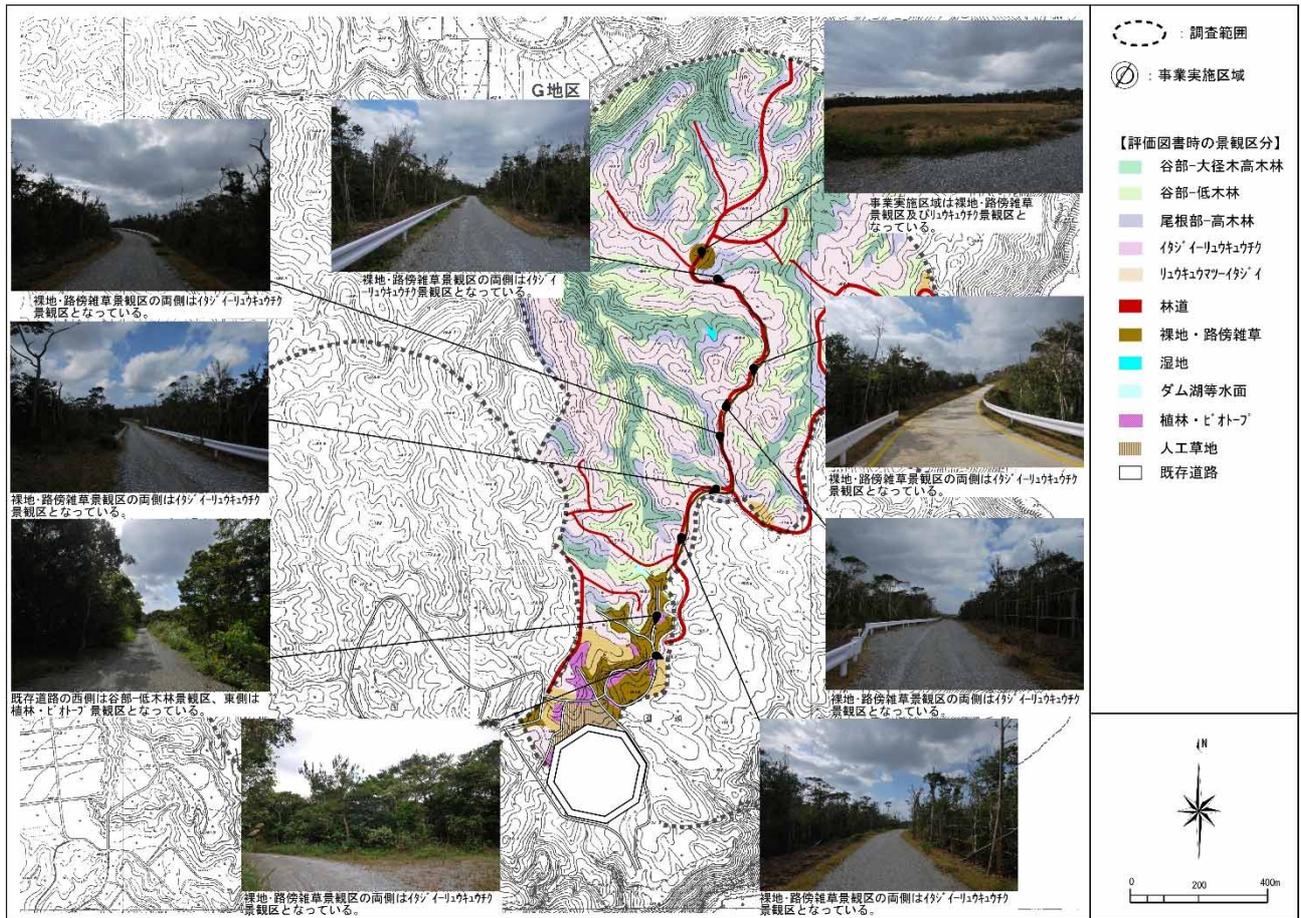


図 7.1.6-3 G 地区における眺めの状況 (平成 30 年度：冬季)



図 7.1.6-4 H 地区における眺めの状況 (平成 28 年)

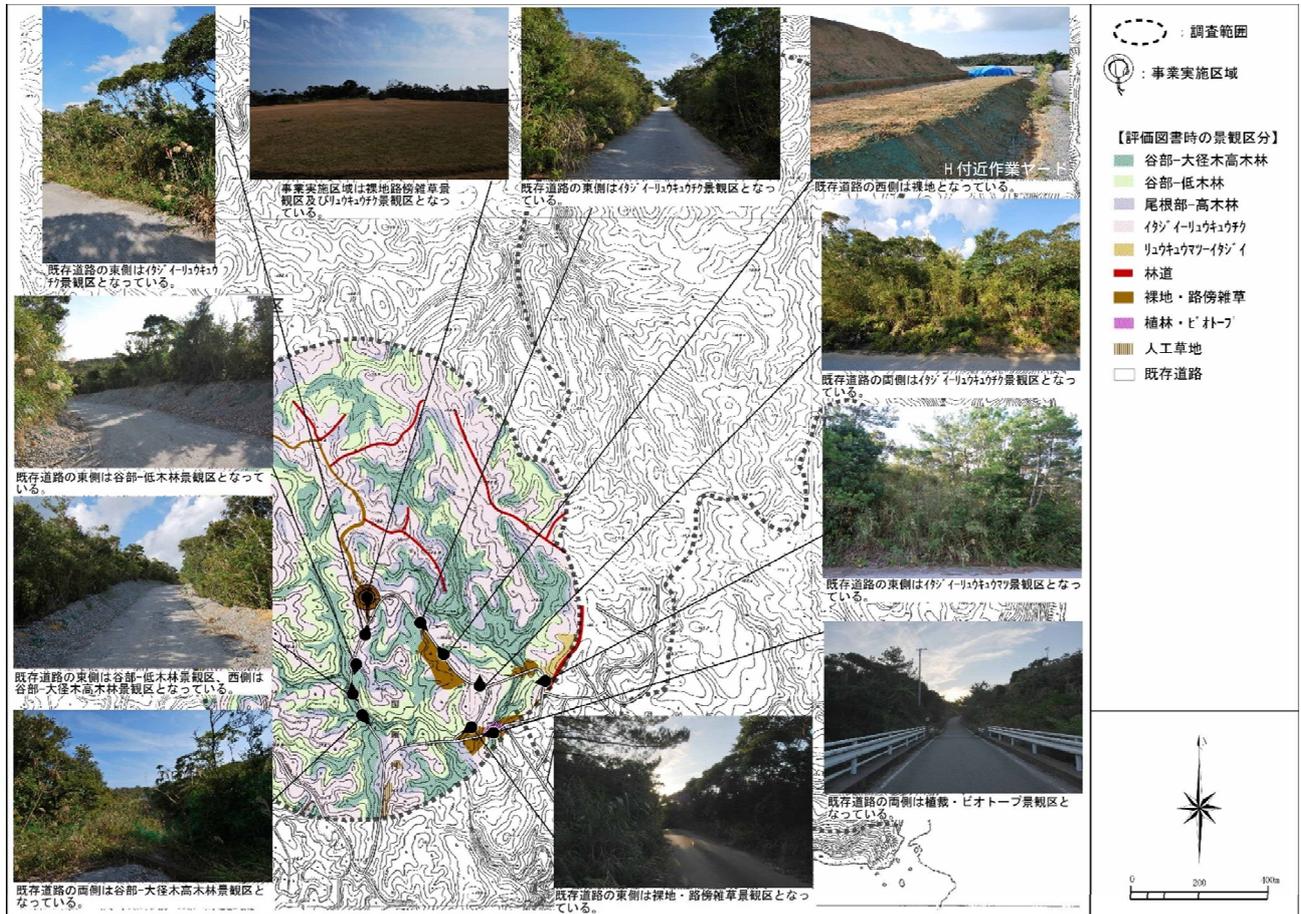


図 7.1.6-5 H 地区における眺めの状況 (平成 29 年度: 冬季)

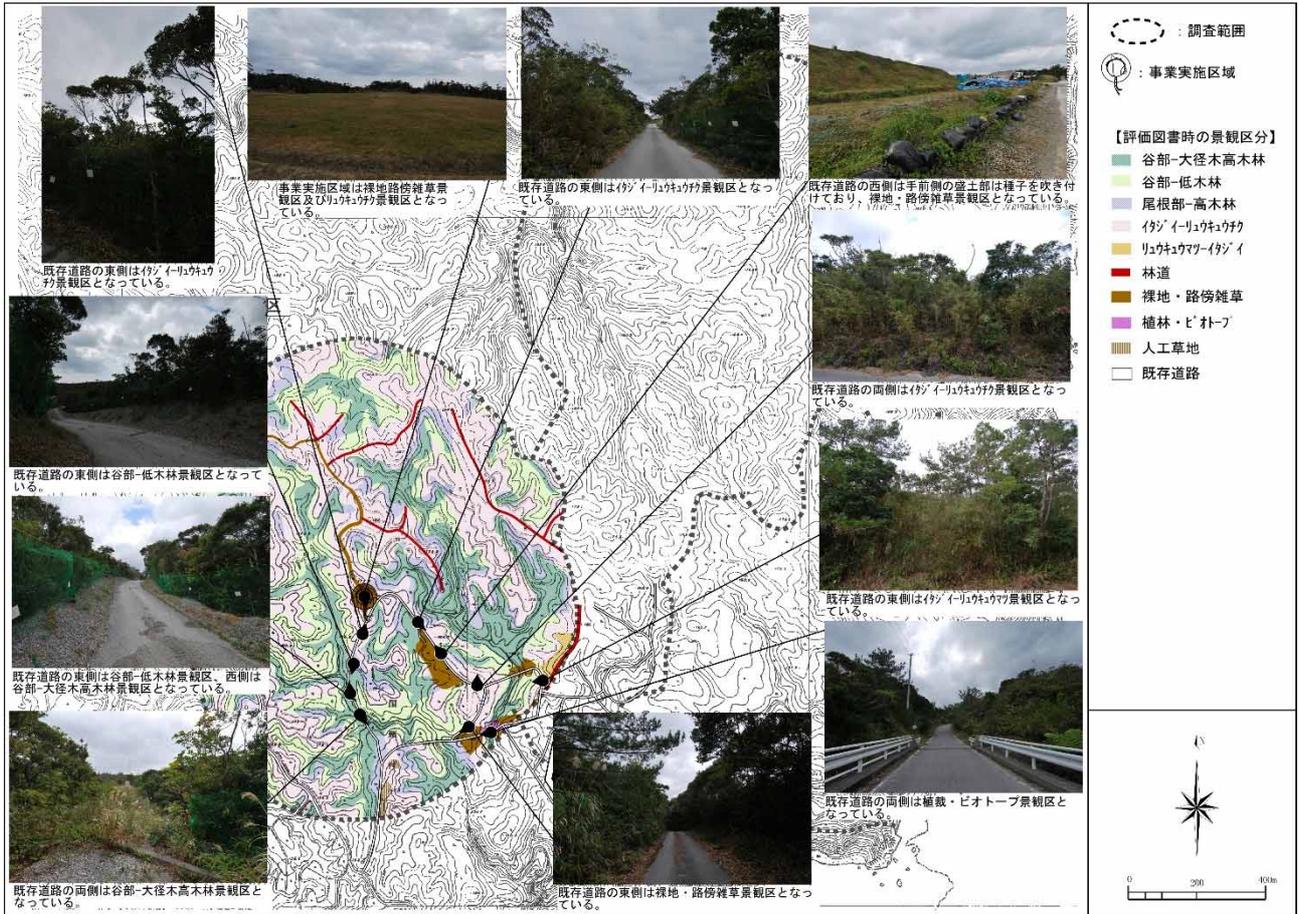


図 7.1.6-6 H 地区における眺めの状況（平成 30 年度：冬季）